

非整形外科的疾患に起因する腰痛症例の検討

なが み はる ひこ¹⁾ や の せい じ²⁾ た なか つね お²⁾
 長 見 晴 彦¹⁾ 矢 野 誠 司²⁾ 田 中 恒 夫²⁾
 やま うち まさ のぶ³⁾ なか やま けん ご³⁾ そえ だ けん⁴⁾
 山 内 正 信³⁾ 中 山 健 吾³⁾ 添 田 健⁴⁾

キーワード：非整形外科的腰痛症，血管疾患，
 内臓悪性腫瘍，婦人科疾患

要 旨

今回，当院へ腰痛症にて来院した約8,000例の患者の中でその原因が明らかに非整形外科的疾患であった160例を臨床的に検討した。160例の腰痛の原因として132例（82.5%）が内臓疾患でありその中でも悪性疾患が31例であった。いずれも進行癌であり，特に膀胱が7例を占めた。また心臓血管外科疾患が12例であり，この中でも解離性胸部大動脈瘤，あるいは腹部大動脈瘤切迫破裂例は超急性期腰痛症の原因として重要かつその診断には特に注意を要する。

一方，良性疾患では急性膀胱炎，慢性膀胱炎急性増悪症例が認められこれらは多臓器障害をきたし易く血管外科疾患同様その診断は確実性が要求される。女性においては子宮筋腫，子宮後屈症，卵巣嚢腫などが主たる原因の腰痛症が認められた。日常臨床で腰痛症は高頻度に認められる疾患であるが，他疾患との除外診断を正確かつ確実に行う必要がある。

はじめに

臨床医，特に診療所の場合，整形外科を標榜する医療機関はもとより他の標榜科目の医療機関においても腰痛症を扱う頻度は高く，その疾患の的確な病因を見出し診断，治療することは高齢化社

会における医療で重要な課題と考える。

一般に高齢者はもとより成壮年者においては腰痛症の原因は骨粗鬆症に合併した変形腰痛疾患，椎体圧迫骨折，あるいは椎間板ヘルニア，腰部脊柱管狭窄症などの疾患頻度が高い。しかしながら日常臨床において腰痛症の原因について血管疾患，内臓悪性腫瘍などの非整形外科的疾患が原因であることも稀ではなく，その診断に際しては常に注意を要する。

今回，当院において開院以来9年間に腰痛にて診察した患者約8,000例のうち，その原因が明ら

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 医療法人健晴会 長見クリニック

2) 島根大学医学部消化器総合外科

3) 島根県立中央病院心臓血管外科

4) 松江赤十字病院心臓血管外科

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1